

3) ペルシア戦争とペロポネソス戦争

次の文章を読み、下記の問いに答えよ。(ただし、下記の文中のポリスAはどこかを答えることを求める設問はない。)

日本で、自由という言葉がおおよそ現在解されているような意味で使われるようになったのは明治維新以降のことだと言われている。日本が開国して西洋世界の文化を受け入れたころのことであった。そのころ西洋世界は自由という概念に強いこだわりを持っていたように見える。19世紀イギリスの思想家ジョン＝スチュアート＝ミルは、(1)マラトンの戦いが英国史上の事件としてさえも、ヘースティングズの戦いより重要な意味を持ったという趣旨の記述を残している。

(1)マラトンの戦いは、東方の(2)専制君主国家によって前5世紀初頭から起こされた西方世界への侵攻と、それに抵抗した諸ポリスによる一連の戦闘のうちの一つであった。(2)専制君主国家とのこの大戦争についての記述を残し、「歴史の父」とも呼ばれる、紀元前5世紀の歴史家 [あ] もまた、諸ポリスの戦いを自由のための戦いと見ていた形跡があることが指摘されている。(1)マラトンの戦いから10年を経て(b) [イ] の海戦が起こる。この戦いでも、諸ポリスが急ごしらえで集めた連合艦隊の主力となったのはポリスAの軍船であった。この時、クセルクセス自らが率いた遠征軍は、惨憺たる敗北を喫している。このポリスAについて、 [あ] は、ポリスAが(2)僭主に支配されていた間には、軍事的にさしたる強国ではなかったが、(3)前6世紀末に行われた改革以降、他に抜きんできた強国となったと述べている。

やがてこのポリスAは、(d) [ロ] 同盟を通じてエーゲ海一帯をその支配圏に収めて(3)繁栄を誇ることとなる。そしてそのことに対する反発が原因の一つとなって、(4)ギリシア世界のほぼ全域を巻き込んださらなる大戦争が生じる。この前431年に始まって27年の長きにわたった大戦争については、歴史家 [い] の残した記述が基本的な史料とされている。 [あ] はイオニアにあったハリカルナッソス出身であったが、 [い] はポリスAの市民であった。 [い] が語る(d) [ロ] 同盟結成に至るまでの経緯を [あ] の記述と比べると、両者の筆の運びの違いから、立場の違いが浮かび上がってくるようにも思われる。

問1 空欄 [あ]、 [い] に入るべき人名を答えよ。

問2 空欄 [イ]、 [ロ] に入るべき地名を答えよ。

問3 下線部(1)について、ポリスAへの侵攻を命じて、マラトンの戦いを引き起こした時の、東方の専制君主国家の王の事績が、イラン西部の崖に彫られた碑文として残されている。後にローリンソンは、この碑文を研究して楔形文字の解読に成功したと言われる。この碑文を何と呼ぶか、その呼称を答えよ。

問4 下線部(2)について、ポリスAにおいて初めて僭主政を樹立したのはだれか。そ

の人物名を答えよ。

問5 下線部(3)について、バルテノン神殿は、そのころのポリスAの繁栄を如実に示す建造物として知られている。この神殿の再建工事を担当し、黄金と象牙を使用した巨大なアテナ女神像を製作したことで知られる彫刻家はだれか。その人物名を答えよ。

問6 下線部(4)について、以下の問いに答えよ。

(1) この大戦争のさなかに、『女の平和』という反戦劇を著した劇詩人はだれか。その人物名を答えよ。

(2) 下記の説明文のうちから明らかに誤っているものを一つ選び、その番号を答えよ。

- この大戦争開始直後から蔓延した疫病により有力な指導者を失ったポリスAには、デマゴゴスと呼ばれる好戦的な指導者が多数現れた。
- 『オイディプス』の作者ソフォクレスや、『メディア』の作者エウリピデスは、いずれもこの大戦争の終焉を見る前に相次いで世を去った。
- ソクラテスは、この大戦争中のポリスAにおける民主政治を衆愚政治として批判し、スパルタの国制を賛美したため、この戦争中に死刑判決を受けて死んだ。
- 27年の長きにわたった、この大戦争について記述した [い] の著作は、未完のままに残されている。

問7 下線部(a)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を答えよ。

- この国が滅びた後、オリエント世界は、リディア、メディア、新バビロニア、エジプトの4王国が分立する時代に入った。
- ダレイオス2世がアルベラの戦いに敗れて滅亡した。
- カンピュセス2世がエジプトを征服して、オリエント世界を統一した最初の世界帝国となった。
- キュロス2世が、メディアを滅ぼして建国の祖となった。

問8 下線部(b)について、下記の選択肢のうちから [イ] の海戦と同じ年に起こった戦闘の一つを選び、その番号を答えよ。

- イッソスの戦い
- イブソスの戦い
- テルモビレーの戦い
- プラタイアイの戦い

問9 下線部(c)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を答えよ。

- この改革の時に導入されたオストラキスモス(陶片追放)の制度によって最初に追放されたのはテミストクレスであった。
- デーモスと呼ばれる行政区を基底に据えて、市民が所属する区を複雑に組み合わせ、市民団を再編成する部族制改革を断行した。

3. 市民を財産の多寡によって4等級に分け、それぞれに権利義務を配分する国制改革を行った。
4. 従来の10部族制を4部族制に改め、各部族100人からなる400人評議會を創設した。

問10 下線部(d)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を答えよ。

1. この同盟に対抗するために、スパルタはペロポネソス同盟を結成して、全ギリシア世界を巻き込む大戦争を引き起こした。
2. この同盟は、マラトンの戦いの直後に結成され、前480年に起こったペルシアとの海戦におけるギリシア側の勝利に多大な貢献をした。
3. この同盟に加盟した諸ポリスは、三段櫂船と呼ばれる古代の軍船に兵員を載せて供出する義務があったが、多くのポリスはそれに見合う資金を拠出する道を選んだ。
4. この同盟に寄せられた巨額の資金は、はじめポリスAの金庫に置かれていたが、前454年以降はこの同盟の名称になっている島のアポロン神殿に移された。

(法政大〈文・経営〉)